



福島県立梁川高等学校
令和元年8月30日
校長だより
知性 誠実 責任
第 35 号

■ 創立百周年記念事業

梁川高校は、今年、令和元年という節目の年に創立百周年を迎えます。11月2日（土）には記念式典、記念公演、記念祝賀会を開催します。また、記念事業として次の2つを行いました。



本校体育館のステージに向かって右側には以前から「校歌」が掲げられていました。今回、左側に写真のような「校訓」を掲げることにしました。「知性」「誠実」「責任」は本校の大切な校訓です。これは、「校歌」「校章」「校旗」とともに本校の伝統を象徴するものです。校訓は、伝統や地域性、生徒の実態などを考慮して設定された学校全体の教育・指導方針です。これからも大切にしていきたいと思います。



本校の正面玄関には「福島県立梁川高等学校」の文字がありました。歳月の流れと共に、文字が見にくくなっていたところでした。今回、記念事業の一環として青く鮮明な文字を蘇らせることができました。校舎の顔である正面玄関に、校章と校名が鮮やかに浮かび上がることになりました。

■ 県新人大会出場

8月26日から28日までの3日間にわたり、福島市にある信夫ヶ丘陸上競技場において、第59回福島県高等学校新人陸上競技大会県北地区予選会が開かれ、本校陸上競技部の2名が県大会出場を決めました。

- ◆ 後藤 湊太（2年1組） 男子やり投げ決勝 第4位 31m59 ※ 県大会出場
- ◆ 桑折航志郎（2年2組） 男子やり投げ決勝 第6位 28m06 ※ 県大会出場

県新人大会は、9月13日（金）から15日（日）まで、いわき陸上競技場において開催されます。

■ 生徒会機関誌「広瀬」vol. 3

－第4号 昭和59年度－

機関誌「広瀬」第4号を読んでいると、ふと記憶にある名前が目に入ってきました。それは私の高校時代の部活動顧問の先生のお名前でした。思い返すと、私が在学した高校での勤務を終え、その後梁川高校にお勤めになったことがわかりました。

昭和59年度の機関誌には、生徒会顧問としてのその先生の文章が載っていました。以下に紹介します。

学習発表会をおえて

生徒会顧問

今年の学習発表会は、日頃の学習成果の展示、発表を行うことは当然のことながら、その活動を通して生徒が創造性、協力性、積極性等を養うことを狙いとし、さらに、発表体験が三年に一度の梁華祭の質的向上と内容充実につながる期待をこめて実施された。

修学旅行、中間考査、いも煮会等の行事が学習発表会の前に目白押しだったので、大多数の生徒が準備にとりかかったのは開会の数日前というのが実情であった。

(中略)

より多くの生徒が直接活動できるようにHRごとの展示も一昨年に続いて行われたが、それぞれに苦労があったようである。

HRの展示には内容の薄さを感じさせるものも無きにしも非ずであったが、どのHRでもいざとなれば、短時間の内に能率的に仕事を遂行できる集中力を見せたのはさすがであった。現実的な計画に基づいて早めに準備にかかれば、他校を上回るレベルに達することも可能であろう。

結果はともかく、学習発表会を通じて自分なりに或る一つのものを成し遂げ、その喜びと充実感に浸ることができた生徒がひとりでも多ければ幸いである。

高校時代の十代後半は、心身共に生涯の基盤がほぼ固まると言われている大切な時期である。この時期の豊かな感受性でなければ触れられず、この時期の素直な心でなければ味わえないものがある。人がどのように一日を送ろうとも、一生の内の一昨日である。自分自身にとってかけ替えのない青春時代に悔いを残さないよう、何か一つ、自分にとって価値あることに心を打ち込み、梁川高校に学んだ証しとしてほしいものである。

この先生は、部活動の顧問としてお世話になりましたが、専門家として指導していただいたわけではありませんでした。当時は、自分たちで練習内容を考え、自主的に練習していました。大会のときには、顧問として来ていただき、多少はアドバイスもいただきました。いつも優しく、生徒のことを思ってくれる先生でした。

英語の先生でしたが、ご退職後は、英語学校（教室）の校長をなさっていました。残念ながら数年前にこの世を去り、今はお会いすることもできなくなりました。もしご存命であれば、昔の梁川高校のお話をお聞きすることもできたらうにと残念でなりません。現在の梁川高校の様子をお伝えし、今年が創立百周年の年であることもお話したかったと思います。

機関誌「広瀬」は、読んでいると何かしらの発見がある魅力的な小冊子です。